

結婚式とは、神様や仏様や列席者の方の前で結婚を誓い合う儀式のことです。
結婚式は、「古事記」、「日本書紀」などの日本神話が起源といわれています。
伊邪那岐命（イザナギノミコト）と伊邪那美命（イザナミノミコト）の国生み・神生み神話では
オノゴロ島に天の御柱を建て、伊邪那岐命が「私と貴方と、この天之御柱を廻つて結婚しましよう。
貴方は右から廻り、私は左から廻り逢いましょう」という約束をし、
出会つたところで「なんとまあ、かわいい娘だろう。」「ほんとにまあ、いとしい方ですこと。」と
呼び合つて結ばれたという記述があるためです。
また、披露宴とは、結婚した事を知人にお披露目するパーティーの事をいいます。



想いで惟い（おもいでおもい）

結婚式

～記念日の想いでをデザインする着物レンタル～

KANEMATA ANNIVERSARY STYLE BOOK

この度は誠におめでとうございます。
この冊子は、記念日の意味合いや所作を知つていただくこと、
記念日をより一層、有意義に過ごしていただくために生まれました。
衣裳を貸すだけではなく、
皆様の記念日の想いでをデザインできたのなら幸いです。
良き一日となることを願つております。

カネマタ衣裳店 スタッフ一同

KANEMATA
— つなぐ想いで —

〒475-0855 愛知県半田市中町1-74
TEL 0569-21-1085
AM9:00～PM6:00[定休日:水曜]
(祝日の場合は営業)



ネットレンタル
和装ウエディング



ネットレンタル
紋付袴



ネットレンタル
ドレス



列席者の前で結婚を誓う式です。
式を行う場所や、進行、演出等を
自由に選ぶことができます。

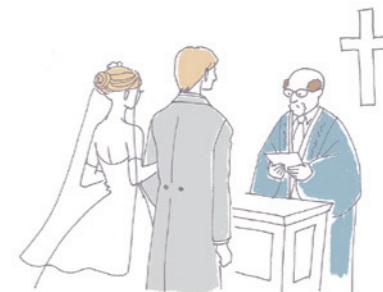


キリスト教の教えに基づいて、行
われる挙式です。キリスト教には
様々な宗派がありますが、大きく
分けてプロテstantとカトリック
に別れます。プロテstantは信徒
でなくても結婚式を行う事が出来
ます。バージンロードは白色、十字
架が掲げられています。牧師が式
を取り扱います。日本のチャペル
で行うキリスト教式はほとんどが
こちらです。カトリックは、結婚する
2人の両方またはどちらかが信徒
であり、初婚である事が条件とな
ります。バージンロードの色は赤
または緑、十字架にかけられたキ
リスト像が掲げられていて、神父
が行います。

家と家との絆を結ぶとされる三
三九度の杯を交わし、玉串礼拝等の
儀式を通じて神様に結婚を報告
する式です。主に神社や神殿が併
設されている式場やホテルで行う
のが一般的です。



新郎新婦や家族が信仰する仏教の
教えに基づき、仏様や先祖に感謝を
捧げ、誓いを立てる式です。縁のある
寺院で行うのが一般的ですが、有
名なお寺や自宅、式場等で行う場
合もあります。



立ち居
振る舞い

[立ち方]

和装はどうしても前屈みになりやすいですが、背筋を伸ばし、肩の力を抜き、顎を引いて真っ直ぐ立つと綺麗に見えます。かつらの重みで重心が後ろに傾きがちですので、少し前に重心をおくイメージで立つとバランスがとりやすいです。

[歩き方]

歩く際は裾を引きずらないよう、裾を持ち上げた状態で歩きます。介添の方が裾を整え待たせてくれますので、それに従って持てば大丈夫です。左右の袴を重ねて右手の人差し指・中指を着物の輪に差し入れ、親指ではさみ、薬指・小指の2本で下から支えるようにします。自身の体に添うようにし、左手は右手の上に自然と添えます。歩く際は円を描くようなイメージで足を前に出します。歩幅は小さめにして、少し内股気味に歩くと綺麗です。目線は足下ではなく3メートル程先を見るイメージで、伏し目がちにすると良いです。

[座り方]

背中の帯を潰さないよう、背もたれにつくほど深く腰掛けず、5センチ程背もたれから離れるくらいがちょうどいいです。

[お辞儀の仕方]

いつもより浅めで大丈夫です。腰から30度くらいに折り、この時首は真っ直ぐになるようにすると綺麗に見えます。

[袖の扱い]

ものを取るときや手を上げるとき、食事をとる時等は、反対の手で袖口をそっと押さえます。この際、肌ができるかぎり見えないようにすると上品できれいに見えます。



CEREMONY STYLE & MANNERS

洋装にて
小物について

[ベール]

ベールは、ヨーロッパで古くから続く伝統的な「清浄」のシンボルで悪魔や悪霊から花嫁を守る「魔除け」のアイテムでした。

[ブーケ・ブートニア]

昔、恋人と結婚したいと思った男性が、野の花を花束にして差し出しプロポーズをしたものがブーケで、YESの返事に彼女が彼の胸へ一輪抜いて挿したもののがブートニアの始まりです。

[ティアラ]

本体は宝石をちりばめた宝冠で、ロイヤルウェディングなどの正式な行事で用いられるものです。宝石は星空を表します。古来より星空は神聖なもの、そして、重大な決断や誓いは星空のもとで立てました。

[グローブ]

結婚前の花嫁の純真無垢な状態を、グローブで守り清めるという意味があります。

[結婚指輪]

指輪は、その形状から「永遠=エンドレス」を意味します。結婚指輪を左手薬指につけるのは、心臓の血管がつながっているという古代エジプトの言い伝えから。西洋では、左手は「服従と信頼」、薬指は「愛情」を示すからと言われています。



和装に
小物について

[懐剣(かいけん)]

武家の女性が嫁ぐ際、自分の身を守るために身についた布袋に入った短剣。魔除けの意味も込められています。

[抱え帯]

打掛けを着たとき帯の下の位置に結ぶ細い帯のことです。裾を引いた着物が日常着だった頃、抱え帯で長さを短くはしました実用品が由来です。

[綿帽子]

真綿を引き延ばし作ったかぶり物。もともとは防寒用に被っていたものが原型で、後に婚礼衣装のひとつとなりました。綿帽子は白無垢の場合のみ使用します。『結婚相手以外に顔を見られないように』という意味が込められています。

[角隠し]

婚礼の際の花嫁のかぶりもの。挙式の際に使用され白無垢・色打掛・引き振袖に合わせる事が出来ます。角隠しには、怒りや嫉妬の象徴である角を覆い隠すことで、おしとやかな妻になるという意味が込められています。



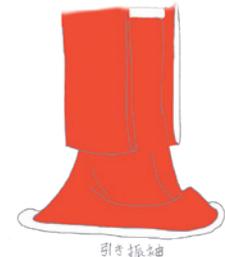
最も格式の高い正礼装で表裏白一色で仕立てられた着物の事。挙式の時に着用されます。室町時代の頃から武家の娘の婚礼衣装として打ち掛けで羽織られていたのが始まりです。江戸時代に入って豪商や富裕な町家でも着られるようになりました。次第に一般にも婚礼の礼服として普及しました。



色地の打掛けに金箔や刺繡がされている羽織の事。昔は白無垢より格下の装いでしたが、現在では正礼装とされています。室町時代に武家の婦人の秋から春にかけての礼服として打ち掛けで羽織られていたのが始まりです。江戸時代に入って豪商や富裕な町家でも着られるようになりました。次第に一般にも婚礼の礼服として普及しました。



裾を引きずって着る振袖の事。大振袖・本振袖とも言います。裾を引いて歩いても足に絡まないように、ふき(裾のへり部分)に綿を入れてふくらさせているのが特徴です。江戸時代後期に、武家の間で正式な婚礼衣装として定着しました。元々は黒地の着物が主流で、黒引き振袖と呼ばれ、黒には他の誰の色にも染まらないという意味があります。



「白」には「純潔・無垢・純真」という意味が込められており、花嫁の純潔さ、純真無垢なイメージの象徴です。この「ウェディングドレス=白」が定着したのは、1840年イギリスのヴィクトリア女王が自らの結婚式で白いレースとシルクサテンの生地のウェディングドレスとベールを着用してからといわれています。